

花火とは化学を造る術ならん

これは、あの夏目漱石が1899年(明治32年)に詠んだ俳句です。私が16年前に花火の化学をテーマにしたサイエンスショーを開発して以来、取り組んできたテーマ「花火と化学」。随分前に、この視点に夏目漱石が着目していたなんて、しかも私と着眼点と同じだなんて、嬉しくて嬉しくて。夏目漱石は、中学生の頃に読んだ「こころ」の中にあつた「向上心のないものはばかだ」という一文に目を覚ましてもらって以来、心の師匠と思っていたところがあつたのですが、この俳句によってますます尊敬する人となりました。

今年の夏は「花火×化学」と銘打って、科学館では「大阪と花火の化学展」、サイエンスショー「花火の化学大実験」、「大阪と花火の化学講演会」、そして大阪市立中央図書館では初のコラボ展「科学館×図書館 ひらめきコラボ展『化学の目で見る花火展』(8/17まで)を行なっています。目がまわるほど忙しかった4月5月はなんとか乗り越えられましたが、花火の世界は奥が深いと気付くことが多く、「花火×化学」の仕事はまだまだ続きそうです。

天神祭の花火はいつ始まったのか問題

今年度の目玉のひとつは、大阪天満宮さんのご協力をいただけることになったことです。大阪では天神祭はあまりに有名で、天神祭といえば奉納花火ということで大阪の花火と縁の深いお祭ですので、今回、私と天神さんとの仲人役を務めてくださった、広報の中井課長代理には深く感謝するところです。

これまで私も、天神祭の花火がいつ始まったのかを調べていましたが、実はなかなかわかりませんでした。その点を天満宮の方にお訊ねすると…天満宮さんでもはっきりしたことがわからないとおっしゃるのです。何千年分という膨大な資料の中から調査を行なうのが大変ということではないかと察していますが、近い将来、この大仕事に関わることができれば幸せだなと思っています。

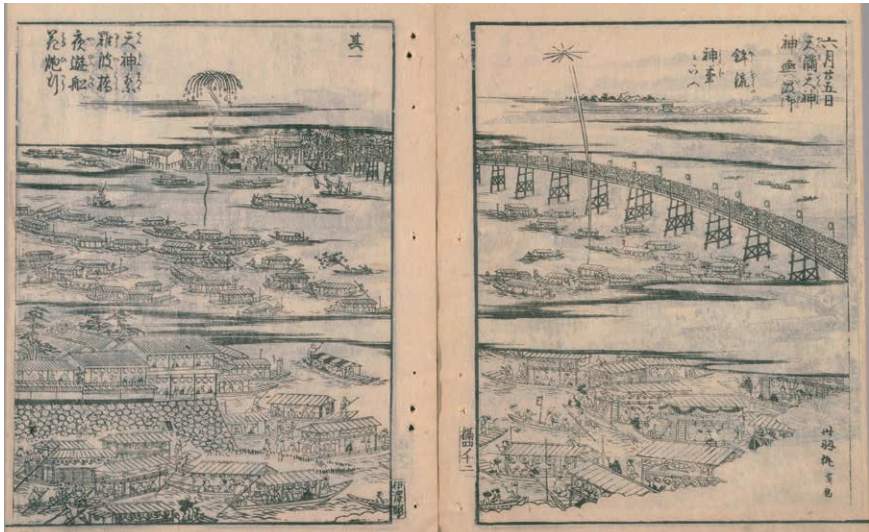
そしてさらに、今年度は大阪市立中央図書館とも初めてコラボ展を開催する機会を得て、しかも花火をテーマにするというご縁で、大阪市立中央図書館が所蔵する花火関係の歴史資料に当たっていただきました。調査は短期間ではありましたが、天神祭の花火が描かれている「摂津名所図会(せつづめいしよずえ)」という資料が所蔵されていました。

摂津名所図会は、今から220年ほど前、1796～1798年(寛政8～10年)に刊行さ



「摂津名所図会」4上の表紙
出典:国立国会図書館デジタルコレクション(保護期間満了につき転載)

れた、今で言う「るるぶ」や「関西ウォーカー」のような観光スポットを絵と文字で紹介する書籍です。全部で9巻12冊あるうちの4巻の上に、大阪天満宮や天神祭が紹介されています。下が、「天満祭」とある見開き2ページで、2つの花火が打ち上がっているのが、わかりますでしょうか？黒一色で書かれているので、花火の色や光の加減は想像するしかありませんが、この資料が、天神祭の花火を絵として記録したものとして、今回の展示資料の中でもっとも古いものになりました。



「摂津名所図会」 国立国会図書館デジタルコレクションより(保護期間満了につき転載)

天神祭は、大阪天満宮が創建された949年(天暦3年)の2年後、951年(天暦5年)に、社頭の浜から鉾を流した神事から始まった、1000年以上の歴史があるお祭りです。そしてその奉納花火は、220年前には行なわれていた、ということがわかります。

どんなことでも、その「初めて」を知ることは興味深いことだと思います。一方で、それはなかなか難しいことでもあります。人や記録などが「初めて」と主張しているだけなのか、あるいはもっと古い資料が見つからないだけなのかなど、苦労をするところです。

「摂津名所図会」の天神祭の花火大会の様子は、科学館では拡大した複製を、大阪市立中央図書館の展示では実物を展示しています。また国立国会図書館のデジタルコレクションでは、「摂津名所図会」をスキャンしたデータを閲覧することができます。

「大阪と花火の化学展」ではこのほかに、古い天神祭の花火のようすを知る資料として、1900年(明治33年)に描かれた「大阪名所」(本物)、1859年(安政6年)に描かれた「浪速天満祭」(複製)を展示しています。ぜひ、花火の歴史にも思いを馳せてみてください。

岳川 有紀子(科学館学芸員)